

令和5年10月 市長定例記者会見

令和5年10月13日(金)

午後5時00分 開始

【秘書広報課主幹】 ただいまから定例記者会見を開始させていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 皆さん、こんにちは。今日は、北陸新幹線の金沢敦賀間の開業日まで残り15日という日です。皆さんも取材に来ていただいたかと思いますが、10月1日に北陸新幹線の試験車両の敦賀駅への入線の歓迎セレモニーを行いまして、ホームに600人以上ぐらいが来て、本当に雰囲気も盛り上がってきたと思っています。3月16日の開業に向けて、引き続き開業の機運醸成に努めて、新幹線の開業効果を最大限にしていきたいと考えています。

それから、暑かった夏もやっと終わって涼しくなってきた、秋の運動会などを地区でやっているところもありまして、ご挨拶などに伺うようにしています。コロナ明けで4年ぶりの開催というところもあって、本当に皆さん楽しそうにやっていたという印象的でした。

スポーツに絡めていうと、15日には敦賀マラソン大会が開催されます。天気だけが少し心配なんですけれども、そこだけなんとかもってもらってスポーツの秋を皆さんで楽しんでいただきたいなと思っています。

冒頭の挨拶としては以上です。

【秘書広報課主幹】 では、続きまして事業発表に移ります。

なお、進行は1項目ごとに発表及び質疑応答とさせていただきます。

それでは、まず1つ目の項目、敦賀市訪韓親善使節団派遣及びポートセールスについて、お願いいたします。

【市長】 2件発表させていただきます。

まず1件目、敦賀市訪韓親善使節団派遣事業及びポートセールスについてです。

10月22日から25日にかけて、敦賀市訪韓親善使節団派遣及びポートセールスのために韓国を訪問いたします。

敦賀市訪韓親善使節団派遣事業では、敦賀市議会議長とともに姉妹都市である東海市を訪問いたしまして、東海市長をはじめ東海市幹部との面談や東海市の視察を行う予定です。

ポートセールスのための訪韓については、新型コロナウイルス感染拡大によりまして平成30年

を最後に中止していたということなんですけれども、コロナ感染症も5類になったということで、それを踏まえまして敦賀港に定期航路を就航する韓国船社4社に対しまして5年ぶりに訪韓、ポートセールスを実施する予定にしています。

以上です。

【秘書広報課主幹】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問をお受けいたします。最初に幹事社さんから。――よろしいですか。

それでは、各社からお願いいたします。ございませんでしょうか。

それでは、続きまして2つ目の項目、つるが観光物産交流フェアの開催について、お願いいたします。

【市長】 2件目、つるが観光物産交流フェアの開催についてです。

令和6年3月16日の北陸新幹線敦賀開業に向けて、さいたま市にあるイオンモール与野でつるが観光物産交流フェアと題しまして、新幹線敦賀開業まちづくり推進会議として地元、観光地、敦賀の観光地や食、それから土産物などをPRしてきます。

主な内容といたしましては、敦賀真鯛、それから敦賀ふぐなどの海産物や、あと昆布の加工品、それから地元の銘菓など、市内8事業者の商品を催事販売するほか、観光や新幹線開業をPRするブースの設置、体験型ワークショップの開催などで、敦賀の認知度向上を図りたいと思っています。

私自身も28日の土曜日に現地に行きまして、イオンモール側に地元製品のトップセールスを行いたいと思っています。また開催記念のセレモニーでは、来場の皆様に直接PRをしたいと思っています。

イオンモール与野は、北陸新幹線の停車駅である大宮駅付近の店舗で、新幹線開業による時間短縮効果が高くて、かつ海がない内陸エリアということがありますので、海産物の訴求効果が高いということで多くの誘客を見込んで、昨年を引き続いてこの店舗を会場にしましてフェアを実施します。

北陸新幹線敦賀開業に向けて、埼玉県さいたま市を含んだ首都圏において敦賀の認知度向上に努めていきたいと思っています。

以上です。

【秘書広報課主幹】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問をお受けいたします。

それでは、フリーの質問対応に移りたいと思います。

【記者】 原発関連で2点お伺いします。

まず、先ほど知事と経産大臣、そして関西電力の社長が面談をしました。その中で、知事のほうで40年を超えて運転する県内の原発、美浜3号機、高浜1・2号機について、来年以降も運転を継続するということを容認しました。このことに対して、近隣の市町として、敦賀市として市長としてどのようにこれを受け止めるか教えてください。

【市長】 知事も、皆さんもご承知のとおり、私たち立地市町の意見も聞いていただきましたし、それから福井県議会でもいろいろ議論をされました。そのようなことを踏まえて総合的に判断をされたということだと思っています。

受け止めとしては、知事の判断を尊重するということだと思っています。

【記者】 続いて、これに関連して、関西電力が示したロードマップの中の一部に、乾式貯蔵をサイト内に施設を造ることを検討しているというのがありました。こうした話、今回のこのロードマップの作成の中で初めて公になったことだと思うんですけども、このことについて近隣の市町の市長としてどのように受け止めているのか教えてください。

【市長】 乾式貯蔵ということでもいいまでも、例えば今回の約束という意味でいうと、県外に搬出できるようにするというので、今回、乾式貯蔵をやっても容量的には変わらないということです。量という意味では本質的にはあまり変わらない話だと思っています。

乾式でやるということで、これからの計画だと思います。まだ詳細出てないというのが実態だと思いますので、近隣市町としても注視してどのような計画あるいは内容になっていくのかについて見ていきたいと思っています。

【秘書広報課主幹】 それでは次に、各社の方からお願いいたします。

【記者】 今回40年超の原発の稼働が止まらなかったという形になりましたが、それについての市長の、評価するところなのか、あるいはこの辺りの判断をどのように見ていたのか、その辺りの受け止めをもう一度お聞かせいただきたいと思っています。また、今回同時に立地市町の振興について、さらにもう1段階拡充させるような話が大臣からも出ていました。原発立地の自治体として、どのような地域振興をこれから求めていくのか、市長のお考えをお聞かせください。

【市長】 稼働が止まらなかったという言い方がいいのかどうかというのはあるんですけども、今回、県と関電さんが約束をして、使用済燃料がどんどんどんサイトにたまっていくのはよくないというところであり、それが端緒になった話だと思います。先ほど言いましたように、稼働が止まらなかったというよりも、例えば六ヶ所のことというのは

前回7月のときにはあまり出てこなかった話です。それについて我々はバックエンド側をしっかりとやっていかなければいけない中で、六ヶ所のことについても7月の段階でも言及してきました。そういう意味でバックエンド側で国も含めて六ヶ所をしっかりとやっていくということの話が出たというところを評価すべきだと思っています。

また、地域振興ということがあったのですけれども、4市町の意見を聞いていただくということで福井県とのやり取りというのはあったのですが、その中で私申し上げたのは、地域振興というのはもちろん大事だということです。これで関西電力さんの発電所が先ほどの3つの炉も含めて動いていく可能性が高まったということを経験として考えたときに、地域振興ももちろん大事ですけれども、もう一つは地域振興の中身は何を求めていくということ。一つは、これから炉が動いていくというのがこの嶺南地域であるとするならば、美浜3号機も含めてそうであるとするならば、やっぱり原子力防災のことをしっかりとやっていかなければいけないのではないかなということには県に対してはこちらから申し上げています。

これから炉が動いていくということは、福島事故の以前と以後ではやっぱり意味が少し違っていると思います。福島事故前は安全神話やゼロリスクという話がどこかにあったかもしれないのですが、今はそうではありません。やっぱり万が一のことを想定していろいろ物事を考えていかなければいけないというところで、やはり原子力防災はすごく大事だと思っています。

原子力災害というのはほかの災害と違うのは、例えば水害にしろ、地震にしろ、起こってもこの場所を動くことはないんです。避難所で体育館に行くということはあっても、敦賀から出ていくのかということとなかなかそうではないと思います。原子力災害の場合にはやはり広域避難を考えなければなりません。そうしたときの避難道路だったりとか、広域で避難するということを前提した場合に、移動手段が例えば車だったりした場合に道路がないとそれはできないわけで、そういうことを今後、原子力を最大限に活用していく必要があります。それから、今回こうやって関電さんが美浜3号機も含めて動くんだという方向性が出てきたということであるならば、地域振興もそうだし、原子力防災についても避難道路も含めてしっかりと取り組んでいただかないといけないなと思っています。

地域振興の答えではないかもしれませんが、答えさせてもらいました。

【秘書広報課主幹】 ほかにございませんか。よろしいですか。

それでは、本日、一般事業発表はございませんので、以上をもちまして市長記者会見を

終了させていただきます。

午後5時20分終了